

Press Release(H30/3/30)

岐阜大学大学院医学系研究科 安藤 弘樹 助教が
日本細菌学会 平成29年度「黒屋奨学賞」受賞

岐阜大学大学院医学系研究科再生医科学専攻再生分子統御学講座病原体制御学分野 安藤 弘樹 助教が3月27日(火)～3月29日(木)に福岡国際会議場で行われた第91回 日本細菌学会総会にて平成29年度「黒屋奨学賞」受賞をしました。

【受賞対象研究】

人工バクテリオファージの創出

【受賞研究の概要】

細菌に感染する天敵ウイルス(バクテリオファージ)をゲノムレベルからデザイン、構築、起動できるプラットフォーム技術を開発した。また、実際に本プラットフォームを用いて様々な人工バクテリオファージを創出した。

【受賞研究のポイント】

・本学術研究の新規性

バクテリオファージを自由にデザインして創出できる世界初のプラットフォーム技術を開発したこと。また、実際に人工バクテリオファージを創出したこと。例えば、薬剤耐性菌を含む様々な細菌に感染できる人工バクテリオファージや、1細菌を1時間内に検出できる人工バクテリオファージと検出系を開発した。

・本研究成果の社会への波及効果

世界的な問題となっている薬剤耐性細菌感染症の予防や治療、難治性細菌感染症の治療や予防に応用できる。また、ヒトの健康と疾病に細菌叢が深く関与していることが報告されており、この編集(例えば善玉菌だけを残し、悪玉菌だけを殺すという使い方)にも応用できる。

【日本細菌学会賞について】

日本細菌学会賞には、細菌学及び関連領域の研究においておこなわれた優れた研究に対して、浅川賞、小林六造記念賞、黒屋奨学賞の3賞がある。

黒屋奨学賞は新しい着想や未開発の分野の研究を展開しつつあり、独自性の高い研究の創成が期待される新進気鋭の研究者を奨学するものである。

【日本細菌学会の概要】

日本細菌学会は、1902年（明治35年）に第1回日本医学会（微生物・寄生虫学・衛生学の連合部会）が開催されて以来116年、1927年に北里柴三郎先生が総会長として第1回衛生学微生物学寄生虫学聯合学会（第1回日本細菌学会総会）を開催されて以来91年の歴史をもつ学会であり、細菌学およびその関連領域の科学の進歩に寄与し社会に貢献することを目的としている。

【略歴】

安藤 弘樹 博士（医学）（大阪大学, 2007年）

～2012年6月 国立国際医療研究センター研究所 感染症制御研究部 上級研究員

～2017年3月 マサチューセッツ工科大学 合成生物学グループ 上級研究員

2017年4月より現職

【本件に関する問い合わせ先】

大学院医学系研究科医科学専攻

秘書 廣瀬 華世

電話：058-230-6488

E-mail：hhirose@gifu-u.ac.jp